

LOVELY KOSHIBARA PROJECT

私たち島根県立松江南高等学校 JRC 部は、『LOVELY KOSHIBARA PROJECT』というテーマで活動をしました。“LOVELY”にはすてきな、“KOSHIBARA”は南高がある地区名で、みんなが素敵だと思える古志原地区にしていこうという思いを込めています。

○高齢者に絵葉書を贈る

地域の方から高齢者と高校生の交流を望む声があり、高齢者に絵葉書を贈ることにしました。当初は敬老の日にお祝いの絵葉書を贈ろうと計画していましたが、高齢者の住所は個人情報のため教えられないと古志原公民館から回答がありました。代わりに古志原地区福祉推進員による8月上旬の定期訪問で配布できるとの提案により、暑中見舞いに変更しました。古志原地区の高齢者は多く、独り暮らしに限定すれば50人くらいだろうと予想していたのですが、375人に上り大変驚きました。JRC部員が絵を描き、JRC部員と有志3人で1枚1枚メッセージを書き、古志原公民館の方にお渡しし、古志原地区福祉推進員を經由して、独り暮らしの高齢者に配布していただきました。375枚に手書きのメッセージを書くことは有志3人抜きではとても難しかったし、配布についても古志原地区の多くの方に協力をいただき、人とのつながりが大切だと感じました。2月には寒中見舞いも贈りました。



○幼児への防災教育

こぼと保育園の保育士の方から、日頃交流がある南高 JRC 部が園児に防災教育を行う意義があるという話を伺ったので、日本赤十字社で提供されている、「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」を使って避難の方法や危険な場所を教えたり、ふろしきリュックの作り方を教えたりすることにしました。保育士との打ち合わせや事前の練習で、幼児には内容や言葉が難しく、情報量が多いと感じたので、幼児にもわかる言葉に言



い換えたり、取り上げているところ以外に興味がいけないようマーカーで囲んだりする工夫をしました。対象も年長のみとしました。ふろしきリュックを作るとき、本結びは難しいと考えたので、片結びになっても固く結ぶことできて安価なビニールのふろしきを使いました。9月13日の放課後に園児に防災教育を行ったところ、きけんはっけん!については園児からは活発な意見が出でうまくいったと感じました。ふろしきリュックでは、好奇心旺盛な幼児がビニールふろしきで作ったリュックを頭にかぶったり、首に巻き付けたりするのを見て、窒息の危険があることに気づきました。解決策として、ビニールの代わりに不織布のふろしきを用いることにしました。不織布なら薄く柔らかい素材で結びやすく、窒息することはありません。比較的安価でもあります。

○高齢者向けの防災マップづくり

最後に、高齢者向けの防災マップを作りました。高齢者向けに古志原地区に限定し、記載内容も、災害救援ベンダー、井戸、AED、一時避難所・指定避難所、公衆トイレに絞りました。災害救援ベンダーは停電時にも使え、災害時には無料で飲料を提供します。古志原地区には、災害救援ベンダーは設置されていない上に、橋南地区(松江市の南部)にはNHK松江放送局にある1台しかありません。後に雑賀町にも1台あることが分かりました。井戸は災害などで水道が使えないとき、井戸水を生活用水や飲料水として利用できるからです。古志原地区の井戸の所在を知るために松江市役所防災安全部、松江市上下水道局、島根県観光保険公社に連絡しましたが、すべての井戸を把握しておられず、また個人情報のため教えていただくことは出来ませんでした。そこで、古志原地区に昔から住んでおられる方を訪問し、井戸の話を伺いました。かつて古志原地区は水が乏しく、農家は井戸を水源としていました。明治3年ごろ野ネズミの被害が甚大で、被害除去のため弘法大師像88体を村内の農家に配置したということで、弘法大師像と井戸の場所に関連があるのではないかという話を伺いました。島根県立図書館に調査を依頼したところ、弘法大師像については渡部昭久さんが調査し、81体の場所を確認したことが分かりました。弘法大師像を頼りに井戸を探す調査を始めました。AEDについては、松江南消防署に連絡してみましたが、設置に関して届け出の義務はないので把握していないということでした。AEDの貸し出しを行っているALSOKに連絡しましたが、個人情報なので教えていただけませんでした。その後松江南消防署の方から日本全国AEDマップというサイトを教えていただき、それをもとに調べていくことにしました。しかし、情報が古く10年前の情報もあったので耐用期限を過ぎていて正確ではない可能性がありました。そこで、マップに記載されている箇所全てに連絡をし、どこに設置されているか、いつ使えるかの2点を調べました。調査している時、AEDの有無や正確な場所を知らない方もいました。改善の必要があります。避難所について市役所に聞いたところ、指定避難所は管轄しているが一時避難所を把握していないという事が分かりました。一時避難所は地域の人たちが管理している避難所です。それでは避難所間の連携がとれず、救援物資が行き届かない、安否確認がとれないという問題が発生すると考えます。公衆トイレについては、松江総合運動公園内と緑山公園のみ確認しました。

12月14日に行われた『古志原里づくりシンポジウム』で、古志原地区住民に対し今回の調査を踏まえて災害救援ベンダーの設置、AEDの屋外設置の推奨と情報提供、井戸の情報提供、一時避難所と指定避難所間の連携についての4点を提案しました。その結果、ヤクルトとの提携により指定避難所の松江南高校の自販機1機を災害救援ベンダーにすることができました。AEDについては、古志原地区には37台確認できました。そのうち常時使えるAEDは4台でした。屋外設置について古志原公民館長が賛同し、公民館の玄関横に1機増設しました。井戸については地域から多くの情報が寄せられ1月末日の時点で80基の井戸が見つかり、うち50基の防災マップへの掲載許可を得ました。今後防災マップは古志原地区の世帯に配布する予定です。

